

日本海でのタンカーの重油流出事故で、海岸に流れつuita重油の回収に全国から若者のボランティアが集まっています。困った状況を見て自分なりに出来ることを何とか手助けしようという人たちが着実に増えています。これは阪神大震災以降の良き現象で、今時の若者たちもまんざら捨てたものでもありません。大いに応援したいと思います。しかし、救いの手を求めているところはテレビで繰り返し流されるところばかりではありません。身近にも多くあります。一時的なブームに終わらないボランティア精神が育っていくことを願ってやみません。

< 第 19 回 ほほえみの会 >

新年を迎え堀越先生、看護婦の塚本さんを交え 10 人が参加しました。

治療でほかの病院に一時入院された方のお話がありました。その病院では患者が多く子供の状態を看護婦さんに聞いても何も知らない。ナースコールを呼んでも急ぐ必要がなければ来てくれない。先生に話を聞くにも紙に書かないと話してくれない。そんな状況で子供は不安がいっぱいになり、親も心配、ストレスがたまってしまったということでした。

子供が難病と闘うとき、十分な設備と最高の医療水準の中で治療を受けさせたいと思うのは親の当然の気持ちです。改めてこども病院が恵まれた環境であることを感じました。

面会の兄弟が待つ部屋がほしいという意見が今回も出されました。病院探検も飽きてくるし、今の時期は寒いのでなんとか託児室のような部屋が出来ないだろうかというものです。

看護婦の塚本さんによれば、今病院内に生活改善プロジェクトが出来兄弟の面会の問題や、面会時のガウンの着用について検討がされているということです。

面会時のガウンについては、長い間洗濯をしないためかえって不衛生ではないかとのことで近じか廃止されるという話もでているようです。

退院後、病気になった時どこで診てもらえばいいかわからないという声もありました。

堀越先生は自宅近くで子供の成長をしっかりと把握している小児専門医がいればその先生に診てもらうのがベスト。だがこども病院なら医療費が全額免除なのでその方がいいのではないかとのことです。

何れにしてもホームドクターは作っておいた方がいいとのことでした。

また退院後、何年たっても心配があったらこども病院に電話すれば 24 時間いつでも対応してくれるとのことでした。

予防接種についての不安が今回も話題になりました。

これに対し、こども病院では今度予防接種の専門外来が出来ることです。アレルギー科の吉田先生が担当で移植後 1 年たったら相談するといいいということでした。

「のぞみの会静岡支部」の十亀さんから“病気の知識と療養の手引き”と“発病後日の浅い患児のご家族へ”という本を預かりました。必要な方には無料でお分けしますのでお申し出下さい。

今回多くの方から沢山の寄付をいただきました。紙面を借りてお礼申し上げます。ありがとうございました。

次回は 2 月 9 日 (日) 12 時からです